



幼稚園まつり

音楽リズム発表会

十一月五日



クリスマス会(縦割り保育)

十一月十四日



自然文化デー(青組)

九月十一日



海の大切さを学ぶために、南知多ビーチランドへ出かけました。浜辺へ降りて、どんなものが落ちているのか実際に拾ってみると、綺麗な貝がらや海藻、ビーチグッズ等の他に、驚くほどたくさんのゴミが落ちていたのです。ビーチランドの職員の方が、「ゴミが落ちていることが、生き物にどんな影響を与えるのかお話しして下さい、地球のために自分たちがどんなことが出来るのか、子どもたち自身が考える時間もなりました。」



◆なるなる畑トピックス

2学期もなるなる畑は、子どもたちにとって爽り多い楽しい場所となりました。子どもたちの心に一番残ったのは、何と言っても**いもほり**でしょう。毎日せっせと水やりをし大切に育ててきたさつまいも。葉っぱが生い茂ってくる「おいもたぐさんで育てるかな」とみんないもほりを楽しみしていました。

いもほりは、十月三十一日、縦割りの保育の時間に行われました。役員のお母様方にお手伝いしていただきながら、子どもたちは夢中になって土をかき分け茎を力いっぱい引っ張り、お手がごころ土の中から出てくると、大喜びでした。

また、畑の隅の腐葉土からは、今年も沢山のかぶとむしの幼虫が見つ



かりました。かぶとむしの成虫は知っていても幼虫がその赤ちゃんだということ初めて知る子どもが多かったです。勇気をだして手のひらにそっと乗せてみた子もいました。その他、朽木の隙間に、ダンゴムシやカナフンの幼虫、ハチもいて、「虫のマンションみたい」と興味津々で虫たちの冬越しを観察していました。



展覧会 (10月13日)

～ 自然と子どものハーモニー ～



今年度は、第一ホールに全学年の描画を、土粘土作品を第二ホールやプレイルームに集結し、他の学年の作品も同じ空間で見られるよう展示。それぞれの年齢がもつ味わいや、子どもの育ちを感じていただけるような展示を目指しました。また、なるなる畑で日々親しんだ野菜や樹木、虫たちを表現した作品が多かったのも、今回の展覧会の特長でもありました。のびやかな色合いや線、手の跡など、子どもたちの息づかいを感じる展覧会となりました。



物語の世界の中で、音楽に合わせて身体表現をした黄組さん、曲のイメージを膨らませ、振りをしてっかり覚えて子どもたちだけで踊った赤組さん、互いのリズムや楽器の音色を聴きあいながら合奏を披露した青組さん。どの学年の子どもも一生懸命で、クラスみんなで心を一つに頑張りました。また、青組の歌唱は、輪唱や二部合唱にチャレンジし、歌う事の楽しさを子どもたちは感じたことと思います。プログラムの最後は、恒例となりました、「希望の歌」の大合唱。歌声で会場全体が一体となり、感動の中、幕がおりました。

豊かな実体験

今学期も子どもたちは、園庭やなるなる畑で多くの自然体験をしました。また絵画造形、音楽リズムの発表もしました。先月、中国から幼児教育視察団が来園されました。いま中国では国策として、幼児が朝から晩まで「勉強」と「塾」通いで、ほとんど自然にふれていないそうです。そのこともたちが、大人になって感性や感覚、対心力、「生きる力」が育っているのか心配です。実体験の不足が、日本でも起こっている事件犯罪の一要因であることも否めません。

自然、音楽、文化芸術にふれ、あそび、おどったり、表現する先に感動し、心豊かな「人間」が育ちます。つまり幼児期は、「実体験」がすべてなのです。冬休みに入ります。文字通り親子でからだを使って、様々な体験経験をし、豊かな実体験のある、良いお年をお迎えください。

園長 岡田 勝彦

